

KSKP

たびだち つうしん

出

発

通

信

NPO法人 出発のなかまの会

181号



		もくじ	目次
一九八四年 八月二十日 第三種郵便物承認 発行	1	乗り越えたいハードル	2
	2	子どもも大人も一緒に考え続けたい	4
	3	いくのぶれーぱーく×防災	5
	4	能登半島地震の募金に行きました／「被災地に思いを寄せて・・・」	6
	5	城崎温泉に行ってきました	7
	6	城崎温泉ゆっくり旅行 金さんレポート	8
	7	幸せって何？(みらくるちっぴ通信より)	9
	8	ランチ会、再開しました！(生野「食と農のプロジェクト」ニュースより)	10
	9	第22回音楽教室発表会 ヒーリングスタジオのつどい！！	11
	10	スタッフ子育て日記	12
		2024年度総会のお知らせ	13
		活動のあと	14

出発通信は今号より出発のなかまの会のホームページにてカラーでご覧いただけます。

の 乗り越えたいハードル

久しぶりに体調を崩し「これはコロナに違いない!」と思って受診したら、病院の外で鼻腔に2本の検査棒を突っ込まれてそのまま外で待機させられました。しばらくして「石井さん、インフルエンザもコロナも陰性でしたよー♪」と看護師さんに伝えられ、ようやく院内で診察できました。折しも新年度からの障害福祉サービスの報酬改定の情報が入り、あれこれ考えては、毎日頭を抱えていたのです。報酬改定のせいで免疫が下がったに違いありません。

その報酬改定ですが、厚労省がおこなったグループホームの調査において、グループホームで暮らす障害者のなかにひとり暮らしを希望する人が一定いるにもかかわらず、うまく退居支援に結びついていないとして、グループホームを出てひとり暮らしを始めるための支援を評価するしくみが導入されました。国の障害福祉サービス報酬改定チームで議論を始めた当初は、入居者がおおむね3年でひとり暮らしへ移行する「通過型」グループホームの新設を検討していたのですが、反対運動の甲斐あって、新タイプの創設はなくなりました。

生活介護では、サービス利用時間ごとの報酬区分が導入されました。サービス利用時間に応じた報酬が設定されることになり、短時間の利用者が多い事業所では事業収入が大きく減る場合もあり、事業運営に多大な影響を及ぼすことは確実です。

近年の改定では基本報酬を下げて、特別な支援には「加算」で上乗せするという考え方が増えています。有資格者の配置、特別な支援シートの作成、記録の保存など、加算をとるための根拠資料を残す必要があり、事務も煩雑になります。「これだけできるなら加算をつけてあげましょう。できないならやめときなさい」と言わんばかりです。加算を算定できれば前の報酬よりも微増というしくみになっているのです。逆に同じ支援をしても加算が算定できなければ収入が下がるということです。

さまざまな加算があるのですが、とりわけ行動障害といわれる行動上の問題を抱える人と、経管栄養や痰吸引等の医療的ケアが必要な方への支援を評価するものが増えてきています。

医療的ケアは当会でも積極的にとりくみをすすめてきた介護です。胃ろうから栄養剤や水分を注入する経管栄養や、唾液や痰を口や鼻から吸引するという手技をヘルパーがおこなえるようになって、病院や施設ではなく在宅で暮らす道が広がりました。医療的な介護が必要でも、家族と離れて介護者を確保しながら単身で暮らされている方もいます。

昨年、あるヘルパー事業所から当会の相談専門支援員に「ヘルパーは胃ろう口から薬を注入できないので、ご家族にしてもらいたい」と言われました。栄養や水分を経管で摂って

おられる利用者の場合、ほとんどの方が何らかの薬を処方してもらっていると思います。口から摂取することが不可能だから、胃ろうを造設して経管で注入しているのに、薬を入れたらアカンとはどういうこと?!と、疑問に思い調べたところ、やはり介護士の業務範囲としては認められていないのです。介護士ができる業務として「内服薬の介助」とは書いていますが・・・。

さきほどヘルパーが医療的ケアをできるようになったと書きましたが、もう少し詳しくいうと、かつて喀痰の吸引・経管栄養については、これが医療行為に該当し、医師法等により、医師、看護職員のみが実施可能だったのですが、例外として、一定の条件下（本人の文書による同意、適切な医学的管理等）でヘルパー等による実施を容認してきたというところを、2012年に法令改定し、現在は介護士も喀痰吸引等研修を修了することで特定行為に従事できるようになっています。

薬を注入するために家族がいないといけないなら、そもそもヘルパーが行く意味はどこにあるのでしょうか。1日に何度も訪問看護が薬の注入だけに訪問することは非現実的です。となると、医療的ケアが必要な人は単身で暮らすことは不可能に近くなります。医療的ケアが必要な人の支援を進めるならば、喀痰吸引等の医療的ケアをおこなう介護士が薬の注入までできるようにしてほしいと思います。乗り越えなければならないハードルは高そうですが、現実に制度や法律が追い付くよう、取り組みを進めたいと思います。

私の報酬改定額は1日で下がり元気にやっていますのでご心配なく。

いしいかおり
(石井香里)



子どもも大人も一緒に考え続けたい

教室は「なんで？」を育てる場であってほしい。

共に生きる喜びを感じながら子どもたちも大人も一緒に育ちあう場であってほしい。

去る3月29日に当会と一般社団法人ひとことつむぐさんで共催した「教育と愛国」上映会&トークショーには年度末の平日にも関わらず80名ほどの方が足を運んでくださり、中には「奈良教育大のこともあって見に来ました」という方や教師と思われる方が「気になってたんです」と来られたりもしました。

映画では教科書の問題が取り上げられていて「道徳」の教科書が検定を受けて「パン屋さん」から「和菓子屋さん」に変更したというのです。どういうこと？と思われたことでしょうか。地域にあるパン屋さんで楽しくお喋りをするという内容のお話ですが、それが「国を愛する」という項目で「不適切」とされたのです。検定では具体的に「このように変更せよ」とは言われないので「忬度」が行われ和菓子屋さんに変更したというわけです。まるで戦時中にタイムスリップし「西洋文化に触れるなんて非国民だ」と言われたようです。道徳だけでなく、歴史でも慰安婦のことを取り上げた教科書を採用した学校に次々と抗議の手紙や嫌がらせの電話が入ったそうです。その中には時の総理に心酔する政治家や有力者が含まれています。これは明らかに国、文科省からの圧力であると感じ、教室の自由はどう保証されるのかと不安を覚えます。どんな物事でも必ず両側面があるはずで、私の生まれ育った広島市の平和記念公園の慰霊碑には「過ちは繰返しませぬから」と刻まれています。一方からだけではなく違う側面も見つめなければ、なにが過ちであったかに気づけないのではと怖くなります。パン屋さんでも和菓子屋さんでも自分の町を好きになることが国を愛することにつながるのではないのでしょうか。

鑑賞後は子どもたちに「教科書に書いてあることは間違っているかも知れないよ」と伝えなくてはいけないのか、と重たい気持ちになりましたが、同時に教室には“権力”と闘いながら子どもと向き合う先生がたくさんおられる、教室の自由を取り戻すために私たちも協力できることがあるはずとも感じました。



上映会後には昼の部は齊加尚代監督と久保敬さん、夜の部は久保敬さんと平井美津子さんのトークショーを設けており、どちらもとても聞きごたえのある内容だったようで(私はバタバタしてしまい殆ど聴けず、残念!)会場から出てこられたみなさんが口々に自分の思いを語っておられたのがとても印象的でした。

お忙しい中来ていただいた、齊加監督、久保さん、平井さんに深く感謝します。中学1年生だという子が自身で作った新聞を手に来場してくれたのですが、その新聞に『学校などでぼくたちは「良い行いをしなさい」と教えられます。だがよく考えてみると大人たちは良い行いをしているのだろうか?(中略)ぼくたちが話を素直に聞きたいと思える大人であって欲しいものだ。』と書かれていました。子どもたちはいつも素直な目で大人をみていますね。

すがたゆか
(菅田裕加)

いくのふれーぱーく×防災^{ぼうさい}

当会も参加している生野子育て社会化研究会と、NPO法人IKUNO・多文化ふらっと共催で「第5回 防災×いくのふれーぱーく」が4月2日にいくのコーライズパーク（以下いくのパーク）にて開催されました。いくのパークは、生野区にあった御幸森小学校が廃校になり、その跡地活用としてできました。当日はあそぼうパン、炊き出し、木工体験、防災クイズラリー、子供服リユースコーナーが設けられました。

ふれーぱーくは去年も開催され、当会のスタッフがボランティアで参加して楽しかったと話を聞いて、今回ボランティア参加しました。事前に何をやるのかは全く聞かされず（まあ、それが面白かったりするのですが）当日、待ち合わせ場所に行き、会場となるもと校庭だった広場の掃き掃除から始めました。広場に植えられた桜の木はまだつぼみも膨らんでいませんでしたが、接ぎ木？された木からつぼみが見えており春の訪れを感じました。

そうしていくうちに各ブースでは準備が進んでいました。今回、あそぼうパンは防災時に使うかまどを使いました。パンの生地は事前に混ぜ合わせたものを15個に切り分け、乾燥を防ぐためにラップをしてそのまま放置していると、天気がよく暖かかったので発酵が進んでどんどん膨らんでいきます！「パン焼いてみる？」と声をかけられた子どもたちが集まってきました。生地を伸ばしました。竹の棒に巻きつけるのでへビのように細長くするのがポイントなのですが、なかなか伸びてくれなくて、引っ張ってみたらすぐにちぎれて苦戦している子もいたり、参加した子供たちの分だけやり方が違って、見ていて楽しかったです。

見ていて楽しそうに見えたのは私だけではなかったようで、大人の方から「やってみたいのですが…」と申し出られることが増えてきました。子ども向けのプログラムなので最初はお断りしていましたが参加者が高止まりしていたので、後半は大人もOKとしました。生地を竹の棒に巻きつけるのも簡単そうにみえて実際やってみると思ったようにいったり、いかなかったり。巻き終わったら、かまどの火に近づけ焼いていきます。かまどの火の周りぐるぐる回して表面がきつね色になったらあそぼうパンのできあがりです♪「おいしい〜！」「これ、パンですわね！」といった声が上がっていました。「家でもできますか？」とレシピを教えるスタッフに聞いている方もいました。廃材木工でイスを作った子どもが「どうぞのイスにするねん」と座り心地を聞いてきたり、広場でドッジボールや鬼ごっこなどで遊んでいたり、と参加者各々が自分の居心地のいい場所ですごしていたのが印象的でした。



（山吹麻耶）

の とはんとうじしん ほきん い
能登半島地震の募金に行きました。

の とはんとうじしん ほきん たの ほきん い じしん
能登半島地震の募金しにいてとても楽しかったです。募金をしに行きました。地震は
こわかったです。の とはんとうじしん ほきん い さけみ ほきん い
能登半島地震の募金に行きました。酒見さんといっしょに募金に行きま
した。えん ほきん い さけみ でんしゅ い
10円を募金しに行きました。酒見さんと電車とバスで行きました。なんば電車でな
んばまで行きました。なんばで えんほきん い
なんばで10円募金をしに行きました。よくがんばりました。自分
から ほきん しに いく と言ったので募金がんばりました。 (つかもと すみ 塚本莉朱実)



ひさいち おも よ
「被災地に思いを寄せて・・・」

がんたん ひるさ おおさか ゆ かん じんだい の とはんとうじしん はっせい とうかい
元旦の昼下がりに、大阪も揺れを感じるほどの甚大な能登半島地震が発生しました。当会と
もつながりのある NPO 法人ゆめ風基金が、はや ひさいち しょうがいしゃ かたがた あんびかくにん しょうほう
収集に動き出し“大阪障害者救済本部”を立ち上げました。本部会議では「被災地障害者
への息の長い支援」を目的に、現地のニーズに寄り添えるよう様々な支援について、話し合い
が行われています。そのひとつに毎月第2土曜日のなんば駅周辺で街頭募金を実施していま
す。

つかもと しんさいご とうほく ど たず まいとし せいかつこうりゆうぶんかさい さんか
塚本さんは震災後の東北に2度ほど訪ね、毎年ポジティブ生活文化交流文化祭にも参加されて
います。がいとうほきん はな い きょうみ しめ とうじつ ごぜんちゅう
街頭募金の話をする、と、「行ってみたい」と興味を示されました。当日、午前中ベッド
で横になっていたのでは体調がすぐれないのかと心配でしたが「行きますか？」と尋ねると、大
きくうなずかれ素早く外出準備にとりかかりました。実は準備のタイミングがわからず、困っ
ていたのかもしれないと、はんせい
反省しました。

なんばに とうちやく ほきんかいじょう えきまえひろば つかもと
到着、しかし募金会場がわからず駅前広場をウロウロしていると、塚本さんが「あ
れ、ちがう？」と、み 見つけてくれました。と同時に私を置いて、会場まで走り出しました。
つかもと し あ かた さんか ひさ て ふ
塚本さんのお知り合いの方がボランティアに参加されており、「久しぶり～」と手を振ってご
あいさつ 挨拶。そしてかばんからさいふ と だ えんだま ほきんばこ
お財布を取り出し、10円玉を募金箱にいれていました。ボランティ
アの方の「ありがとうございます」の声掛けに、つかもと えがお こた
塚本さんはハニカミながらも笑顔で応えてい
ました。つかもと ひさいち おも よ なに こうどう
塚本さんも被災地に思いを寄せ、何か行動したかったのかなと感じました。

募金を終えカフェでお茶していると、塚本さんが「〇〇さんもおったな」とポツポツ語りだしました。「また募金に行きたい？」と尋ねると「うん」と、大きな声が笑顔と一緒に返ってきました。塚本さんに「これからも被災地のなかまを応援しようよ」と、背中を押されたように感じました。



思いを寄せながらも行動できないときは、まわりの人に話してみよう、お互いポンッと背中を押しあいながら、半歩でも今できることをしようと、教えてもらった一日でした。(酒見敦子)

令和6年能登半島地震の発生に伴う社会福祉施設等に対する介護職員等の派遣依頼を受けて、職員を能登半島の被災地に派遣しました。

城崎温泉に行ってきました

吉田さんはコロナ感染症が流行した時からカニ温泉旅行に行きたいと言っていました。コロナ感染症が落ちつきカニの季節が来たのでようやく行く事になりました。吉田さん・金さん、スタッフ河合・村上の4人で城崎温泉に行ってきました。みんな出発前から、旅行に必要なものを買ったりして旅行を楽しみにしていました。

当日は大阪駅で待ち合わせて、『特急こうのとり』に乗って城崎温泉へ。座席を向かい合わせにして座り、楽しく会話しながらとおもいつつ・・・いつの間にか居眠りしていました。

気が付くと到着していました。早速、城崎の街をガラガラと荷物を引っ張って観光です。インバウンドで外国人客が多いかと思っておりましたがそれ程いない。どころか、時期のせいかな観光客自体あまりいませんでした。おかげでゆっくりと町中を歩いて観光できました。お昼ご飯を食べた後、ロープウェイに乗って大師山山頂で頂上から城崎の町を一望しました。また、そこに瓦投げがあったので挑戦しました。200円で3枚でしたが、投げづらく、的は小さく、まったくあたりませんでした。それでもみんな投げたので、これで回はきっちりとおとしました。この後、旅館に行ってお待ちかねの晩ご飯です。もちろんメニューはカニです。カニしゃぶのコースです。みんな美味しかったようで無口になって食べました。山盛りのカニが出てき食べ

きれるか心配でしたが、きっちり食べる事ができました。カニを堪能したあと温泉に行きました。一番近い地蔵湯に行き入ってみると、ガラガラでほとんどお客さんはいませんでした。おかげでゆっくりとお湯を楽しめました。旅館に帰ってくるとすでに布団が敷いてありました。みんな疲れたのですぐに布団に入って寝ました。ただ部屋にはまだカニの匂いが残っていました。

次の日も城崎の街を観光、足湯に入ったり美味しいものを食べたりお土産をかったりして城崎を楽しみました。帰りの電車では、城崎で買ったおやつを食べながら旅行を振り返っていましたが、みんな疲れたのかいつの間にか寝ていました。今回のような楽しい旅行がまたできればと思います。(河合次郎)



きのさきおんせん 城崎温泉 ゆっくり旅行 金さんレポート

温泉街でにっこり、足湯でほっこり。



待ちに待ったカニです。

おいしいです。さすがの私

も無口になりました。

「幸せって何？」

みらくる ゆーすとで3回目となる「こども哲学」をおこないました。相手と違った意見でも否定しない、発言者の話は最後まで聴くなどのルールを確認し、まず問いとなるテーマを子どもたちと決めます。いくつかの候補の中から今回は「幸せって何？」がテーマに決まりました。テーマが決まると、「どんな時に幸せを感じるか？」という話から、「友達に誕生日を祝ってもらった」「友達を何かしている時」「眠いの好きな子と話してる時」などそれぞれが感じた幸せについての発言や「幸せって感じたことない」という発言もありました。話しを進める中で「“幸せ”と“うれしい”はちょっと違う」「“うれしい”と“楽しい”は違う」と話にもなりました。Aさんは「幸せばかりじゃ疲れる。たまにっらいこともあっていい。つらいことがあるとより楽しく感じるから。」と発言。Bさんが「他人の不幸を見たら」と発言すると、他人と比べて自分が幸せなことに気づいたり、不幸になった時に“あれって幸せやった”って気づいたりするかもという話になりました。

子どもたちが答えのない問いについて考え、対話することも哲学を通して、自分の気持ちや意見を発言することだけでなく、自分と違う意見にもふれ、自分と違う意見を受け入れながら自分の考えを深める機会になればいいなと思い、始めました。照れもあるのかもしれませんが、子どもたちの中にはちょっと面倒くさそうに参加する子もいました。でも、いざ始まると、自分が思うことを積極的に発言していて、驚かされました。「幸せって何？」というテーマに子どもたちは思っていたよりも軽やかに発言し、相手の考えからまた新たな考えを導き出して発言している様子もあり、普段何気なくする会話とは違った子どもたちの発言に成長を感じることもありました。子どもたちとまたこのような機会をもてたらなと思っっています。

※本記事は「みらくるクラブ通信」から転載しています



ランチ会、再開しました！

ようやく暖かい日が訪れ、春を告げる季節になりました。出会いと別れ、あらたに次のステージへ向かう人やあたらしい人を迎え入れる人などそれぞれに門出の時期でもあります。松野農園では、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるったことにより中断を余儀なくされていたランチ会を再開することができました。



2020年に中断していたランチ会ですが、その後は『まちの保健室 陽の芽』で継続して取り組まれていました。『まちの保健室 陽の芽』は、医師として働きながら”多忙を極める医療機関の医師と、納得のいく説明やアドバイスを求めている受診者との双方の通訳者のような役割、存在”として松野農園とおなじ生野東で運営されています。松野農園でのランチ会は、その方がはじめてくれました。



4年の歳月を経て『まちの保健室 陽の芽』のご協力により再開したランチ会当日は、松野農園で活動されているペーパークラフト教室やかきかた教室も開催されており、18名もの人たちに参加していただき賑やかな会になりました。はじめて松野農園でのランチ会に参加した人もいましたが、4年前のランチ会に常連のように参加されていた人も参加して、さながら同窓会のような

雰囲気になりました。生野区社会福祉協議会の『むすびファーム』からは、収穫されたタマネギの差し入れもいただきました。

松野農園のランチ会のコンセプトには、松野農園で収穫した野菜をできるだけつかって、みんなで食べるというのがあります。今回も松野農園で収穫したブロッコリーや春菊、金柑などをつかいました。教室に参加されていた人は一緒につくるということはできませんでしたが、同じ空間で同じように別の手作業をしながら会話する光景は、なかなか味わい深いものでした。

松野農園で活動しているペーパークラフト教室と水彩画教室が、区役所のギャラリーにおいて展覧会(4月1日～26日11時まで)を開催されています。展示されている作品をみて、ペーパークラフト教室に参加したいという方がいらっしまったそうです。区役所に行く機会があれば、ぜひギャラリーでの展覧会もみて行ってください。ランチ会は今後も月一回(不定期)のペースで継続していく予定です。今後もさまざまな活動を、いろいろな人たちとゆるやかに顔の見える関係をつくりながら取り組んでいきたいとおもいます。



※本記事は「生野“食と農のプロジェクト”ニュース」から転載しています

第22回 音楽教室発表会 ヒーリングスタジオのつどい！！

2024年2月4日、香山直彦さんがドラムを習っている音楽教室の発表会が、阿倍野区民センターでありました。

みなさんもお存知だと思われませんが、香山さんは自由です。上がった緊張したりしません。もしかしたらしているのかも知れませんが、感じさせません。この日も会場に着くなり自由に客席を歩き回りお母さんを探していました。見つからないと、いろんな人に「お母さんは？」聞いていました。プログラムが始まり、進行がもたついたりすると、自分の出番じゃなくても『直が、直が。』とステージに上がった事もされました。

そして出番が来ると、楽しそうにステージに上がり、ドラムを叩き始めました。先生のピアノに合わせての自由演奏。聞いた話では、先生も最初は曲に合わせて普通の伴奏を教えようとされていたようですが、この自由なスタイルこそが香山さんにとっても合っており生き生きしていると判断されたようです。ある人は、この演奏を見て、ジャズだと言われました。そして程良いところで先生が上手くまとめて香山さんのシンバルでジャーンと終わりました。演奏後は先生と腕を組んで拍手を浴びていました。

全てのプログラムが終わり帰り支度をしていると、1人の少年がやってきて、香山さんのファンで握手がしたいと言われました。この少年は、香山さんの前の出番だったのですが、緊張して全くドラムが叩けず交代してしまいました。この少年にとって、香山さんの自由さがとても眩しく見えたのかも知れません。香山さんは笑顔で握手に応じておられました。

おくざわよしゆき
(奥澤義之)





こそだ にっき スタッフ子育て日記

前回のスタッフ子育て日記に掲載させてもらって少なからず反響もあり、お気遣いおよび鼓舞激励をいただきありがとうございました。その後の我が家がどうなったのか、ご報告させていただきます。父は相変わらず家族序列下位のままですが、そこそこ元気にやっています。父母ともに娘の中学受験と反抗期の荒波に揉まれながら試行錯誤を重ねている感じです。飼い猫はそんな日常を気まぐれに観察して欠伸している感じです。

娘はというと中学受験を乗り越え志望校に進学することができました。

よそのお子さんがどのような基準で進学先を選ぶのかは分かりませんが、娘の基準は①野球部が強い事 ②プロ野球選手が卒業生に在る事 (某プロ球団ならなお良し) ③自分が楽しく学校生活を送れること (制服が可愛ければなお良し)

小学4年の終わり頃には私立中学に行きたいと言い出した娘。理由は野球部の強い学校に行きたいから。高校からではあかんの?と聞くとそんなには待てないとのこと。そこから親子で学校選び、親の意見はほぼ却下され早々に条件に合致した学校を絞り、好きな野球選手の母校やし〜♪とすごい楽しそうやった。最初はそんな感じでした。

でも、去年夏の高校野球の大阪大会で志望校の女子生徒二人がアナライザー(分析や成績管理を専門としてチームに貢献する係)に任命され、ライバル校の撃破に貢献というニュースをみて「アナライザーになる!」と明確な目標に変わったと見ていて感じた瞬間でした。そこから遊びに行くこともなくなり(野球観戦以外)、我が家のテレビがつくこともなくなり(野球観戦以外)。そして年が明けて入試。

合格おめでとう。

小学生にしてそこまで明確な目標を持てた事、そこまで好きなモノに出会えた事に感謝するし誇りに思う。父としては羨ましい限りだ。

入試も終わり、遊びまくって野球よりカラオケやゲームの比重が高くなっている気もするが…。どこまでモチベーション保ってやっていけるかわからないけど応援はしていきたいなあ。(ウザがられない程度に)この原稿を書いた前日が桜満開のなかでの入学式。きれいで立派な校舎で学費の心配もよぎりつつ…

娘よ夢に向かって、寄り道しながら進め。

父よ家族の為に、寄り道しながら耐えろ。

とよたみのる
(豊田 稔)



2024年度総会のお知らせ

いつも当会の活動へご支援いただきありがとうございます。本当に多くの方々に支えていただき、2023年度を終えることができました。

これからも“地域で支援を必要としている人”に必要な支援ができるように、“生きにくさを抱えた人”が社会から孤立することがないように、日々の活動をとおして『地域』づくりの取組みを進めていきたいと思ひます。

下記の日程で、2023年度の活動をふりかえり、新たな活動をスタートさせる総会を開催いたします。会員の皆様、是非ご参加ください。

日時： 2024年5月27日（月） 15時00分～16時00分

場所： 東成区民センター6階 小ホール（大阪市東成区大今里西3-2-17）

正会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください！

◆正会員・・・活動を支援し、総会に参加して下さる個人の方
会費3,000円+通信送料300円 計3,300円

◆寄付者・・・活動を支援して下さる個人・団体の方
寄付金 年間3,000円以上

★当会は、認定NPO法人として認定されていますので、ご寄付をしていただくと、税制上の優遇措置【所得税・個人住民税(大阪市内・府内にお住まいの方)】を受けられます。認定有効期間が2024年7月10日となっておりますが、引き続き認定を受けられるように、更新手続き中です。

認定NPO法人を続けていくためには、年間3,000円以上寄付して下さる方が、100人以上必要です。ご協力よろしくお願ひいたします。

◆購読者・・・出発通信を購読して下さる方 購読料 500円

☆振込先：郵便振替 00910-9-306080

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

※ご負担いただひておりました、会費・寄付金をゆうちょ窓口及びATMから現金でお振込みいただく場合の加算料金110円は廃止になりました。

※すでに寄付金をいただひた方にも事務作業の都合で、振込用紙を同封させていただきます。お許してください。

活動のあと

1/5 グループホームスタッフ全体会議	3/6 消防設備等法定点検②
1/10 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会 生野区グループホーム連絡会世話人会 生野区学童期子ども支援連絡会役員会	3/7 喀痰吸引等安全委員会 医療的ケア研修(すきっぷ・たびだち)①
1/11 生野区相談支援事業所連絡会役員会	3/8 第三者委員会
1/12 執行委員会	3/11 自主勉強会
1/15 自主勉強会	3/13 生野区グループホーム連絡会世話人会
1/16 見学実習受入検討委員会	3/14 執行委員会 医療的ケア研修(すきっぷ・たびだち)②
1/17 生野区学童期子ども支援連絡会	3/16 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座① 地域共生ケア全国ネットワーク研究交流フォーラム プレフォーラム
1/18 生野区相談支援事業所連絡会	3/17 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座②
1/19 ビロン(松野農園)	3/19 どんどんプロジェクト会議①
1/21 みらくるクラブ【運動会】(いくのパーク)	3/21 みらくるちっぷ おめでとう会①/執行委員会
1/22 障大連事業所ネットワーク全体会議第 1 グループ会議	3/22 ビロン(松野農園) /障大連運営委員会 地域共生ケア生野推進委員会
1/23 障大連対市協議	3/23 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座③
1/24 生野区 NPO 連絡会	3/24~30 契約更新手続き
1/24~2/7 実習生受入(東大阪大学)	3/26 どんどんプロジェクト会議② でっかいかるた大会参加(生野区学童期子ども支援連絡会主催) /作業所エッセンス会議
1/26 作業所エッセンス会議 地域共生ケア生野推進委員会 障大連運営委員会	3/27 『教育と愛国』内部上映会 生野区 NPO 連絡会役員会
1/27 内部研修(発達障害勉強会) どんどん交流会(南部障害者解放センター)	3/29 みらくる ゆーすと おめでとう会 『教育と愛国』自主上映会
1/29~2/10 実習生受入(東大阪大学)	3/30 みらくるちっぷ おめでとう会② 内部研修(発達障害勉強会)
1/30 出発通信発送	3/31 IKUNO サラダボウルプロジェクト(異文化交流桜祭り)
1/31 執行委員会/研修委員会	
2/1 生野区相談支援事業所連絡会役員会	4/2 どんどんプロジェクト会議③ いくのふれーパーク(いくのパーク)
2/2 グループホームスタッフ全体会議	4/2~4/12 実習生受入(大原学園)
2/4 生野区学童期子ども支援連絡会役員会	4/4 執行委員会/ランチ会(松野農園)
2/9 執行委員会	4/5 グループホームスタッフ全体会議
2/9~3/29 インターンシップ受入(近畿大学)	4/10 生野区グループホーム連絡会世話人会
2/11 IKUNO サラダボウルプロジェクト定例会	4/11 執行委員会
2/14 生野区グループホーム連絡会(防災研修)	4/12 生野区学童期子ども支援連絡会役員会
2/15 生野区相談支援事業所連絡会	4/13 内部研修(発達障害勉強会)
2/16 地域共生ケア生野推進委員会役員会	4/15 自主勉強会
2/16~22 内部研修(人権研修)	4/16 生野区相談支援事業所連絡会役員会
2/17 内部研修(発達障害勉強会)	4/17 生野区学童期子ども支援連絡会
2/18 みらくるクラブ【あそぼうパン】(奈良県平群バンブーハウス)	4/18 ヘルパー募集(桃山学院大学)
2/21 生野区学童期子ども支援連絡会	4/19 生野区相談支援事業所連絡会
2/23 ビロン(松野農園)	4/24 ヘルパー募集(近畿大学)
2/24 医療的ケア研修(みらくるちっぷ)	4/25 作業所エッセンス会議 ヘルパー募集(関西大学・四天王寺大学)
2/26 執行委員会 障大連事業所ネットワーク全体会議第 1 グループ会議	4/25 生野区 NPO 連絡会役員会
2/28 執行委員会 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会 生野区 NPO 連絡会役員会	4/26 ビロン(松野農園) 地域共生ケア生野推進委員会役員会
2/29 作業所エッセンス会議	4/30 執行委員会
3/1 グループホームスタッフ全体会議 障大連運営委員会	
3/4~3/15 実習生受入(大原学園)	

編集後記

ゆめ風基金主催の能登半島地震被災障害者救援募金活動に参加してきました。能登半島はライフラインの復旧さえも進んでおらず、自らや家族の生活が成り立たないため、職場を辞め被災地を離れていく職員が多く、障害当事者の方々が被災地に残されているという現状があると聞きました。全国からの支援が求められています。

(平山周平)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

〒544-0011
大阪市生野区田島 1-10-30
たびだち共働作業所内
TEL 06-6758-6641
FAX 06-6758-6749

郵便振替 00910-9-306080
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
ホームページ <https://www.tabidati.jp/>
750 部

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行
発行人 関西障害者定期刊行物会 大阪市天王寺区真田山町二・二

東興ビル 4 階

頒価百円